

『一心千里』

永田隆一

走っていていれば、
見えてくる



第114回

「僕はウォッカベースのマティーニをください」。雄介が注文すると、バーテンダーは微笑みながら「かしこまりました」と返した。

10年前、20歳の学生だった雄介を、亮太は東京の会社でインターンとして一月預かった。あれから10年が経ち、今夜は京都祇園のバーでの再会。亮太は60歳になり、相変わらず忙しく飛び回っている。亮太も微笑んでいる。マティーニはジンベースで飲むものだ。ウォッカベースで注文するのは0.07のシェームスpondただだ。こ洒落たことを覚えやがって(笑)。

「亮太さん、10年前の

こと感謝します。能天気な学生だった僕を東京で預かっていただき、頭に大きな衝撃を与えられたこと、色んな人たちが色

るタイプでして、自分でも自覚と反省をしています。そして自分でルールを決めました。飲みすぎたと思ったら、すぐにト

雑談の中で汲み取れること

その言葉で褒めてもらったから

んな人生を生きながら生きていくことを知り、言葉は丁寧に使うこと、相手のことをよく理解して

イレに行きます。ウォシユレットで顔を3分洗うのです」。

「ほう、そういう使い方は初めて聞いた」。

「鼻の穴にウォシユレットの水が勢いよく入ると、少し痛いけど酔いが醒めるのだそうです」。

「まあ、まじめな話はあるにしても、洒落た話で笑わせてくれないかい」。

「話題が水でできたなら、俺も水で返すよ。スイス工科大学はアインシュタインが卒業した大学だ」。

「はい。昨日、木屋町のバーで友人と飲みました。友人はお酒に飲まれ

分らしなら、小さなビールグラスの大きさと大卒初任給くらいの価格だ」。

「凄く技術ですね。売れますね」。

「雄介君、それがね。既存のポンプは3カ月で壊れる。そして、装置メーカーはポンプ交換・取付作業で収入となる。装置メーカーは、装置が時々故障してくれるからサービスマンを社員として

抱えていける。時々、故障しないと困るのだ」。

「落語みたいな話ですね。厚生労働省が労働統計の改ざん不正を反省して、職員を2倍に増加するので大丈夫と、胸を張って公表しています。増えた職員の費用は税金です。ウソつきのつけを国民が負担する」。

「さあ、次は」。「ロボットの話です。帳票を読み取ってキーボードに打ち込む作業を、友人が自動読み取り、

「自己肯定」に関する人々の「自己認識の感覚です。自己評価で及第点をつけている方々は、自己肯定の割合も高く、穏やかです。自分の人生にとりあえず肯定の判断ができているのです。しかし、自己評価で自分に及第点をつけていない方もおられます。この方たちは、他人や社会に対しても及第点をつけない傾向が高く、批判攻撃的な言葉を使われます。しかし、こういった方々は努力家さんが多く、高すぎる及第点を設定されている場合があります」。

(毎月連載)